

仙台市議会議員 いのまた由美 議会報告

# ゆみコミ



2021年7月発行

発行人:いのまた由美(太白区版)

〒982-0801

仙台市太白区八木山本町1丁目36-7

グランチェスタ八木山101

令和3年第2回定例市議会は、6月8日から23日まで開かれ、新型コロナ対策費にかかる一般会計補正予算案など計14件の議案審査が行われました。いのまた由美は、「地域との協働による課題解決について」など、一般質問いたしました。

## 質問 太白区松が丘と青山1丁目の境にあるコンクリート製擁壁と管理通路の安全管理について



2021年5月現地調査

現在所有者だった建設会社が解散し清算人もいない所有者不明状態になっており、生活環境の悪化や安全管理上の問題が発生しています。所有者不明土地の安全管理は全国的に課題になっています。この擁壁については毎年八木山連合町内会を通じて太白区へ要望が提出されており、当局に継続対応していただいています。しかし今年2月の福島県沖地震以降、相次ぐ地震も影響して亀裂や剥離が増えています。隣接する市有地通路にコンクリート破片の落下が増えたことから、青山第一町内会の皆さんが3月に太白区と仙台市に緊急要望書を提出しました。その後、太白区・都市整備局・町内会の方々と合同で現地調査をして、対応の協議が進められています。

今後も、住民の安全安心を守り続ける観点を第一にして連携をすすめ、対応をしていただくことを求めますが、ご所見を伺います。

## 答弁 太白区松が丘にあるコンクリート擁壁の安全管理についてお答えいたします。

当該コンクリート擁壁につきましては、これまでに、本市が管理する隣接通路へ数センチ程度のコンクリート破片の落下が確認されたことから、カラーコーンを設置し、安全確保に努めたほか、大雨時や地震発生時に、道路パトロールを実施するなどの対応を行ってまいりました。

民有地内の施設管理につきましては、基本的には、土地所有者が負うべきものと考えておりますが、所有者だった建設会社が解散し、さらには清算人も不在となっていることから、地域住民の皆様も不安に思われているところがございます。こうしたことを踏まえ、まずは道路管理者の観点から、地域からのご意見やご要望などを丁寧に聞き、安全安心の確保について、関係部局とも連携を図りながら、取り組んでまいります。

## 質問 防災など安全安心について



八木山地域では、防災の取組の中で、若者や子育て世帯に情報が行き届いていないという地域課題を見出し、多様な主体が繋がるまちづくり活動の取組に活かしています。太白区家庭健康課では、2015年から市民の方と協働で乳幼児の事故予防ワーキンググループにて防災リーフレットを作成し、窓口にきた子育て家庭にお渡ししています。多様な住民がそれぞれの知見や強みを活かしつつ、行政と補いあって、暮らしの中に防災等の安全安心の取組を根付かせていくことが、今後ますます重要になっていくと考えます。ご所見を伺い、私の第一問といたします。

## 答弁 地域防災など安全安心に関する取り組みについてのお尋ねでございます。

八木山地域におきましては、防災対策に取り組む地域の団体が、防災マップや非常食レシピ集の作成、大学との連携による啓発など、特色のある活動を行っており、平成30年には防災功労者内閣総理大臣表彰を受けております。

また、子育て関係団体等と区役所のワーキンググループでは、これまで、子育て家庭の非常用持ち出し袋に関するものなど4種類のリーフレットを作成してきており、好評なことから、今年度は水害対応編に取り組むこととしております。

このような多様な主体における日頃からの活動や連携は、地域の特性に応じた自助・共助の力を高め、防災力の向上に大きく寄与することから、太白区としても更なる取り組みを進めてまいりたいと考えております。

# 妊娠・出産期から子ども若者までの支援やヤングケアラーについて質問しました

## 仙台版「ネウボラ」の成果や課題は

市長は「この4年間で特に妊娠期・出産期の支援の充実をはかり、産婦健診の費用助成や、産後ケア事業の開始、5歳児発達支援事業を開始し、切れ目ない支援が着実に進んできた」と答弁しました。また、本市母子保健分野と、地域の子育て支援、福祉分野、NPO等との連携もさらに進めていくべきだと質問し、「関係機関と連携した見守りによる虐待予防など取組を進めている」との答弁でした。

## ヤングケアラー支援（健康福祉委員会）



### ヤングケアラーとは？

ヤングケアラーについては、法令上の定義はないが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている児童、と認識している。子どもたちが家庭の中で、親の家事の手伝いや小さい子の世話をすること自体は良いことではあるものの、その頻度や時間が、手伝いの範囲を超えて過重な負担になり、学業に支障が生じたり、子どもらしい生活が送れなかったりするなど、子ども自身がやるべきことや、やりたいことができないような状態になってしまうことが課題である。



### 本市の取組の具体例は？

各区役所等においては、ケアが必要な方についてのご相談をお受けした際には、その方へのサポート体制も含めた家庭全体を見て、支援を行っているところ。ネグレクトなどの児童虐待にあたると思われるケースは、要保護児童対策地域協議会実務者会議において情報共有を図り、連携して対応を行っている。このような世帯については、家族の介護や看病など複合的な課題を抱えていることも多く、引き続き必要な関係機関につなぎながら、支援してまいりたい。また、子供相談支援センターにおいても、電話相談やふれあい広場等を通じ、ヤングケアラーと思われる例を把握した事例があり、いずれも家庭環境等を踏まえた上で、必要に応じ、関係機関と連携した対応をしているところ



### ヤングケアラーという概念が広まることの効果は？

「ヤングケアラー」という概念が広まることにより、関係機関はもとより、地域の方が、家族のケアをしている子どもを把握しやすくなったり、あるいは子ども自身が声を上げやすくなるということが期待できるものと考えている。



### 学校以外で、子ども自身が相談しやすい窓口は？

子どもが直接相談できる窓口としては、子供相談支援センターの「ヤングテレホン相談」「子どもメール相談」などがある。また、本市では、子育て・家庭・親子関係などの悩みを持つ方が気軽に相談できる、LINEを活用した相談窓口を、宮城県と共同で開設する予定としており、現在調整を進めているところ。

## 子ども・子育て支援の活動に携わっているNPO等の方々とオンライン意見交換をおこなっています

岡本あき子衆議院議員のYoutubeチャンネルの企画として、いのまた由美が司会をして、仙台や宮城で活動している方々との意見交換をしています。QRコードからご覧ください。



児童虐待や若年被害女性支援の活動として、いのまたも実行委で取り組んでいます



ふどうこうカフェ 武山理恵さん



Kaziプロジェクト 木村秀則さん



にんしんSOS仙台 キミノトナリ 東田美香さん



子どもアドボカシーみやぎ 榎崎たつみさん